

プログラミング学習に係る研究の進捗状況と今後について

諏訪市ICT活用委員会

1 現在までの進捗状況

6/1(木)の第1回ICT教育推進協議会以降、ICT活用委員会が中心となり、次のことを行ってきた。

(1) ICTを活用した授業実践と授業参観

- ① タブレットを用いて、スタディノートやTeamsを使った授業実践を行った。
- ② ①の促進を図るため、夏休み中に各学校を訪れて研修を実施した。(希望校のみ。計6校)

(2) ICT活用委員の学級で、プログラミング学習の授業を実践し、参観及び研究会を行う。

- ① 市教委から示された「ICTを活用したプログラミング学習例」の中から、あるいは、各教科のカリキュラムに位置付いている単元で、アンプラグドで行える内容についても試行した。
- ② 小学校6年理科「発電と電気の利用」は、理科専科が小学校すべてで行う。(6月からキッドを順番に回している。今年度は、あと1校で完了)
- ③ 中学校は、昨年度東京理科大学と協力・連携(予定)して推進した「ぶつからない車を作ろう(2年:技術科とのづくり科の合科)」を、諏訪中学校と上諏訪中学校で実施(11月から12月)。他2校については、技術科の授業として実施することを検討中。

(3) 「9年間を見通したプログラミング学習カリキュラム プロトタイプ」の作成

- ① 昨年度まで実践研究してきた内容や、今年度(2)で実践研究した内容を考慮し、昨年度作成した「9年間を見越したプログラミング教育カリキュラム諏訪市モデル プロトタイプ素案」を修正途上である。

2 今後について

- (1) カリキュラムに関しては、年明けも可能な限り委員に実践を重ねてもらい、3月末に「令和6年度版プロトタイプ1」を全小中学校に周知し、令和6年度から各学校で実践できるようにする。(資料参照) また、令和6年度以降も授業実践を継続して、カリキュラムをより実効性のあるものに刷新していく。

- (2) 諏訪東京理科大学との協力・連携については、

- ① 「令和6年度版プロトタイプ1」の中・高学年に位置付ける予定の「マイタイピング(ローマ字)」「ビスケットとスクラッチ」「チャットボット」を扱う授業の際、どの子も同じように習得できるよう支援していただく。
- ② 中学校においては、AIや科学技術を組み合わせ、科学技術を活用する力を培う学習を位置付けたクリスカリキュラム(技術科、あるいは技術科とのづくり科の合科)の研究・作成を、指導時数を考慮しながら引き続き連携して模索する。
- ③ 諏訪東京理科大学から、「この教科のこの単元で、プログラミング学習が可能だ」という提案があった場合は、該当学年を担当する委員に授業を行ってもらい、委員会で検討の上カリキュラムに位置付けていく。